

I. 校長挨拶

今年で27年目を迎えるメルボルン日本人学校の前身は、昭和47年9月に創立されたメルボルン補習校でした。昭和61年5月に現在の場所（6 Ellington Caulfield South VIC 3162）で、児童・生徒数96名でメルボルン日本人学校としてスタートしました。平成2年頃には子どもたちの人数がプレップ（幼稚園部）を含めると150名を超えることもありました。プレップ2名、小学部31名、中学部15名、計48名の子どもたちが元気に楽しく学習を進めております。設立母体でありますメルボルン商工会議所、学校運営理事会や保護者会の皆さまをはじめとして、オーストラリア政府・ビクトリア州政府・日本国政府・海外子女教育振興財団などの多くの方々に支えられて今日を迎えるに至っております。

本校では従来から、国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りをもって、世界に羽ばたく人材の育成をめざした学習活動の実践と、日本の学習指導要領に基づく教育課程の編成を行い、「確かな学力」をさらに「質の高い日本の教育」へ、また、オーストラリアの地の利を生かした活動により「豊かな心」の育成に努めています。

平成21年度からは、コミュニケーション能力の向上と英語教育（ESL）に力を入れていきます。英語力の向上はもちろん、「全教科を通じて話し合い活動を充実させ、コミュニケーション能力を高めていこう」と教職員一同、気持ちを一つにして取り組んでいます。その一環として、少人数の利点を生かしながら、自由に自分の意見を言える雰囲気作りと、友達の意見を聞いて自らの考えを高めていく場を常に設定する授業作りを工夫していきます。また、フルタイムで関わられるESL（第2外国語としての英語）教員を増員して「英語が使える日本人の育成」にも力を入れていきます。さらに、現地校との交流の回数も増やし、交流学习の充実を図っています。その結果、英語の力が飛躍的に向上しています。

少人数学級編制による、きめの細かい行き届いた心配りのできる環境で、「質の高い日本の教育」を目標にして、文部科学省より全国から選抜された、卓越した力量をもつ経験豊かな教職員が日々努力を積み重ね、教育活動に邁進しています。その結果、21年度・22年度・23年度に中学部を卒業した生徒は全て、日本各地の第一希望の高等学校に進学することができました。偏差値65以上の学校に入学できたのも、「質の高い日本の教育」を実践し、きめ細やかな個別指導を徹底した結果であると自負しております。

また、21年度に、ヴィクトリア教育省より、「特別学校」として認可され、カリキュラムについては、オーストラリアの教育内容に合わせることなく、日本のカリキュラムに沿って授業することが認められました。ナップランの試験は、子どもたちの英語力を確かめるために行っておりますが、教えている内容が他の学校と異なりますので、結果は比較の対象にはならないものと考えております。

II. 本校の教育目標

本校は、メルボルン周辺に在住する日本人子女及び、今後日本において日本の教育を受ける予定のある者に対して、オーストラリアの現地校としての枠組みの中で、日本国憲法・教育基本法・学校教育法の基本概念をしっかりと把握し学習指導要領に準じた本校の教育計画・教育活動を実践していくものとする。

日本人としての自覚を持って国際社会を生きていくこころ豊かな子どもの育成

～質の高い日本の教育を通して～

1. めざす子ども像

- ・ 進んで学習に取り組み、やりぬく子ども
- ・ 思いやりを持ち、助け合う子ども
- ・ からだを鍛える元気な子ども
- ・ 豊かな心を持ち、広い視野で考える子ども

2. めざす教師像

- ・ 使命感を持った教師
- ・ 子どもとともに歩む教師
- ・ 研修に努める教師

3. めざす学校像

- ・ 魅力ある楽しい学校
- ・ 信頼される学校
- ・ 日豪のかけはしとなれる学校

4. 教育目標設定理由・根拠または理由

保護者や地域の住民の方の学校に対する関心も高く、日本人学校への期待も大きい。地域に開かれた学校をめざす中、メル校デーなどの学校行事には多くの方が見学に来られる。

本校は、「現地理解教育の推進」というテーマのもと各学年で小テーマを設定して、子どもたちが自らの課題をもち、自分で解決する力・社会に目を向け生活する力を伸ばすことと共に、人としてのやさしさと忍耐力や寛容のこころを培い、国際人として世界にはばたく人材の育成をはかりたいと考え、教育目標を設定した。

〔課題〕

- ・ 地域に開かれた学校づくりの在り方を求めた教育活動の推進等
- ・ 教員の資質の更なる向上をめざした教育・研修の在り方の工夫
- ・ さまざまな体験的活動における活動場所の開拓と英語教育の推進
- ・ 少人数学級における個を大切にし、一歩すすんだわかる授業の工夫と実践
- ・ 日本の英語熱の煽りを受け、英語圏における世界的な日本人学校離れが進む中での児童・生徒数の継続的な確保をはかる
- ・ 海外において、外での運動や遊ぶ機会に恵まれない環境を踏まえ、体育・体育的活動にも力を入れ、逞しい体と情緒ゆたかなこころを育む

5. 指導の重点

①確かな学力の定着

学力には基礎的・基本的内容についての学力と問題解決的学力の両面がある。激動する社会情勢の中で、日本人として自覚をもって生きていくこころ豊かな子どもの育成をめざす中で、「問題解決能力」と「自ら学び続ける力」特に重点を置いた指導を心がけたい。また、現行学習指導要領の趣旨に則り「確かな学力」の定着に全力を傾ける。

②豊かな心の育成(充実した英語教育と現地理解教育を踏まえ)

本校は地の利を生かした英語教育や ESL(第2言語としての英語)を押し進める。また、英語の実践的活用能力の向上を図るために、現地校との交流学习を実施する。さらに、各校外活動においては、オーストラリアならではの文化や習慣にも触れ、豊かなこころを育み、国際人として世界にはばたく人材の育成をはかる。

③情報教育の推進

情報教育は時代の求める教育といえる。

発達段階に応じて、情報の検索・収集・選択・発表・発信などの能力を高めるとともに、必要な情報の管理と活用についての知識を養う。

④地域理解教育

ヴィクトリア州、メルボルンの特徴を活かした教育を行う。

現地校との交流を積極的に行い、現地の学校や子どもたちの考え方を学ぶ。

現地校の優れている点などを学び、日本人学校に取り入れられる物については取り入れていく。

⑤コミュニケーション能力の向上

豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが大切である。その基盤となるのが、話すこと・書くこと・聞くこと・読むことであり、一人ひとりのコミュニケーション能力を向上させていくことが豊かな心を育むことに繋がっていく。

Ⅲ.主な行事

1, 2012年度年間行事予定

別紙参照

2, 2011年度年間の主な行事内容

①始業式・入学式

4月13日には、小竹首席領事や棚橋理事長などの来賓をお迎えして、2011年度のスタートに当たる始業式・入学式を行いました。46名の児童・生徒で2011年度がスタートしました。

②ジャパンフェスティバル

5月15日の日曜日。ボックスヒルの会場で行われたジャパンフェスティバルに参加しました。4月から一生懸命練習してきた「よさこいソーランよっちょれ」を小学部の子どもたちが、中学部の生徒たちは「南中ソーラン」をステージ上で元気に披露しました。子どもたちの真剣さと揃った演技は、オーストラリアの方々にもメル校をアピールする大きな要素となりました。

③児童生徒総会・1年生を迎える会

5月4日の児童生徒総会や5月5日の1年生を迎える会でも、子どもたちが主体的に取り組み、自分たちが会を運営している姿が見られました。

④中学部宿泊学習

5月24日から27日にかけて中学部の15名がグランピアンズ方面に宿泊学習に出かけました。グランピアンズ等の美しい自然の中で、多くのアクティビティーに取り組むことができました。「自ら考え自ら動く、友達のために自分も頑張ろう。」そんな姿を見ることができました。

⑤ミュージックフェスティバル

6月14日には小学部のミュージックフェスティバルが行われました。各学年が、普段の音楽の学習の成果を十分に発揮し、見学していた保護者の方々も大変満足した様子でした。

⑥メル校デー

9月11日の日曜日。メルボルン日本人学校にとって大きな行事の一つであるメル校デーが開催されました。午前中の「ワトルタイム」は、中学部はグループごとに「東日本大震災」を現地の方々に知っていただくために「東日本」についての発表をしました。小学部は「習字・俳句」「相撲」「音楽」の3グループに分かれて日本の素晴らしさをアピールしていました。午後は、「祭 de 番付」に取り組みました。「バザー」は大変好評で、多目的室から溢れんばかりの人でごった返していました。

⑦運動会

10月16日。時折強風が吹く中、メルボルン日本人学校の第26回運動会が開催されました。子どもたちは、競技や演技に「協力」「競争」の目当てに向けて自分の持っている力を十分に発揮していました。小学部の「よさこいソーランよっちょれ」と「トラブルメーカー」は、プレップから小学部6年生までが楽しく身体を動かし、一体となって美しく演じていました。中学部の「南中ソーラン」は、見るたびに力強く逞しくなっているように感じました。そして、「解禁！AKBの舞台裏」では、楽しい表現の中に日頃の体育で培った、技能や表現力が随所に盛り込まれていました。

⑧小学部交流学习

10月26日と11月10日に、交流校であるグラモーガン校のお友達がメル校にやってきました。日本語の勉強をしているグラモーガン校の子どもたちと、英語の勉強をしているメル校の子どもたちが、お互いの国の言葉を上手に使いながら会話をしたりゲームをしたりしている姿は大変微笑ましいものがありました。

⑨中学部交流学习

12月6日と8日には、中学部がウエズレーカレッジとの交流学习を行いました。英語で日本の文化を紹介したりゲームの説明をしたりしました。昼食時には、ごく自然に英語で会話する姿があちこちで見られました。

⑩小学部宿泊学習

11月23日から小学部の4・5・6年生が、ヒールズビレで2泊3日の宿泊学習を行いました。フライングホックス・カヌー・キャンプファイヤーなどのアクティビティーが体験でき、子どもたちにとって大変有意義な充実した時間を過ごすことができました。

⑪小学部遠足

12月2日には、小学部の1～3年生とプレップがストロベリーピッキングにバスに乗って出かけました。たくさんのお菓子を収穫して、満足して帰ってきました。1年生から3年生がさらに仲良くなった遠足でした。

⑫オープンクラス

1月9日からのオープンクラスには25名の子どもたちが、メル校の子どもたちと一緒に学習に取り組みました。7日間という短い期間でしたが、大変充実した時を過ごせたことと思います。

⑬水泳学習

2月3日、9日、13日の3日間、WAVES LEISURE CENTREにおいて、水泳学習が行われました。ホップ・ステップ・ジャンプ・チャレンジの4グループで学習に取り組みましたが、先生方の指示をしっかりと聞き、着実にこの3日間で泳力が伸びたように思いました。

⑭生活科・社会科見学

1月27日、30日、31日の3日間は、小学部6年生、プレップ・小学部1・2年生、小学部3年生の生活科や社会科見学が行われました。6年生はヴィクトリア州議事堂を見学し、オ

ーオトラリアの政治や日本との関係を改めて考える良い機会となりました。プレップ・1・2年生の水族館の見学では、友達と仲良く多くの魚などを見学し思い出に残る楽しい1日となりました。

⑮授業参観・懇談会・保護者全体会

2月4日の土曜日に、授業参観・懇談会・保護者全体会がありました。大変多くの保護者の皆様にご来校いただきました。小学部は学年ごとの発表や全体発表がありました。中学部は、英語・社会・数学の授業を行いました。その後の保護者全体会で、アンケートの結果と来年度の事についてお話をさせていただきました。

⑯卒業証書授与式

3月9日に第26回の卒業証書授与式が行われました。小学部6名、中学部4名の皆さんに、一人ひとり卒業証書を手渡しました。メルボルン日本人学校で培った友情はずっと続くものと確信しました。車いすテニスで活躍する国枝選手を紹介し、努力したことは必ず結果として表れるので、常に努力を惜しまないよという話をして送り出しました。

IV. 教職員リスト

1. 教職員

職種別	氏名	所有免許	性別	主任・担任・担当教科	所属	着任年次
校長 派遣教員	丸本 互	小	男		神奈川県	平成21年
主幹教諭 派遣教員	渡會 寛之	中高	男	主幹教諭・中1・2担任	佐賀県	平成21年
教諭 派遣教員	田中 寿和	中高	男	行事主任・小4担任・⓪国語	秋田県	平成20年
教諭 派遣教員	小室 吉昭	小中高	男	小6担任・教務主任	大阪府	平成20年
教諭 派遣教員	猪原 光代	幼小中高	女	小2担任・研究主任	兵庫県	平成21年
教諭 派遣教員	吉村 信次	中高	男	中学部主任 数学	福岡県	平成23年
教諭 派遣教員	白田 貴彦	小中	男	小3担任・体育主任	宮城県	平成23年
教諭 派遣教員	伊藤 仁	小中高	男	小1担任・学部主任	大阪府	平成23年
教諭 派遣教員	稲垣 美里	小中高	女	小5担任・情報主任・音楽担当	茨城県	平成23年
教諭 現地採用	藤田 厚子	英語	女	英語科主任・⓪56英語・⓪123英語 FAD		平成19年
教諭 現地採用	ヘンリエット ハート	ESL	女	⓪⓪ESL FAD		平成14年
教諭 現地採用	ジェイン デイビー	ESL	女	⓪⓪ESL FAD		平成23年
教諭 現地採用	渡邊 あおい	小	女	プレップ		平成23年
事務主任 現地採用	葛西 秀子		女			昭和61年
事務 現地採用	松尾 佳州子		女			平成21年
用務 現地採用	ドナルド リム		男			平成21年

2. 教職員取得免許状

免許状の種類	人数
小学校免許状	9人
小学校免許状 (TESOL)	1人
中学校免許状 (国語)	1人
中学校免許状 (社会)	2人
中学校免許状 (数学)	1人
中学校免許状 (理科)	1人
中学校免許状 (英語)	1人

中学校免許状（体育）	2人
中学校免許状（TESOL）	1人
大学院卒業専修免許状（理科）	1人
大学院卒業専修免許状（英語）	1人
大学院卒業専修免許状（体育）	1人

V. 職員の出勤率

1. 教職員数

16名 正規教職員数 14名 非常勤 2名（1名週5日、1名週2日）

2. 出勤日数

205日

3. 病欠延べ日数

16日（病気等）

4. 出勤率

$$1 - \left[\frac{16 \text{日}}{(205 \text{日} \times 14 \text{名} + 205 \text{日} \times 2 / 5 \times 1 \text{名} + 110 \text{日} \times 1 \text{名} + 82 \text{日} \times 1 \text{名})} \right] = 0.99477 \quad 99.5\%$$

VI. 教員の研修

1. 研修日数

20日

2. 研修実施日

5/16・5/20・6/3・6/20・7/8・7/15・9/5・9/16
 9/26・10/24・10/28・11/14・11/18・12/2・
 12/5・12/21・1/16・2/20・3/5

3. 研修内容

①公開授業による校内研修

・校長を指導助言者として、それぞれの担当する学年・教科の授業を公開し、その進め方や質問の仕方など細かな点に及ぶ研究協議を行い、より質の高い日本の教育を実現する研修を実施した。

・全学年において、公開授業を実施して学習指導要領に基づく指導のあり方について理解を深めることができた。

②校外研修

・全派遣教員でデンソー・オートモーティブ・システムズ・オーストラリアを訪問し、オーストラリアでの自動車部品の生産状況について参観し、教員としての資質向上に役立てた。

・英語・ESL教員は、児童・生徒の書く力（writing）を伸ばすための外部機関の研修に8日間をかけ、指導のための資料やワークシートを得ることができた。その資料やワークシートを授業に活用している。

4. 研修費用

・平成23年度の職員研修費用はA\$826であった。

VII. 児童の出席率

	P	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8	G9	合計	授業日数	延べ日数	欠席人数
4月	2	2	2	3	6	6	7	5	6	5	44	11	484	13
5月	2	2	2	3	6	6	7	5	6	5	44	20	880	5
6月	2	2	3	3	6	6	7	5	6	5	45	21	945	6
7月	2	2	3	3	6	6	6	6	6	4	44	21	924	14
8月	2	2	3	3	6	6	6	6	6	4	44	13	572	45
9月	2	2	3	3	6	6	6	5	5	4	42	17	714	24
10月	2	2	3	3	6	6	7	5	5	4	43	21	903	12
11月	2	2	3	3	6	6	7	5	5	4	43	21	903	10
12月	2	2	3	3	6	6	7	5	5	4	43	14	602	6
1月	5	2	4	4	7	6	6	5	5	4	48	16	768	52
2月	5	2	4	4	6	6	6	5	5	4	47	21	987	10
3月	5	2	4	4	6	6	6	5	5	4	47	7	329	2
												203	9011	199

出席率は $1 - (199 \div 9011) = 0.978$ 97.8%

VIII. ナップランの結果

1, 3年、5年、7年、9年生におけるNAPLANテストの平均値(Reading, Writing, Spelling grammar&punctuation and numeracy)について

①試験について

実施学年……3年生・5年生・7年生・9年生

実施回数……年1回 5月中旬ごろ実施

試験の問題がすべて英語で書かれており、しかもオーストラリアのカリキュラムに基づいたテスト内容であり、日本の文部科学省による学習指導要領に基づいた教育内容とは、相違している。そのため、このテストの結果で児童・生徒の学力を結果づけることはできない。ただ、その結果の分析からある程度の傾向を読み取ることはできる。

②試験結果について

英語科(現地校では、国語に当たる教科、本校では、ESL・・・English As A Second Language) reading, writing, spelling, grammar&punctuation についての本校の結果は、現地校の平均よりも下回っている。ただし、英語が母国語でなく第2言語として学習していることを考慮に入れるとレベルはかなり高い。

また、日本の基準と比較した場合、ESLの授業とG5(5年生)から行っている英語の授業の成果により、英検の合格率にも裏付けられているとおり、トップクラスの英語指導実績であるといえる。

英語の4種のテスト項目の中で、grammar&punctuation と spelling の成績が他の項目に比較して割合が高い。これは、おそらくESLの授業と英語の授業が効果的に実践され、成果を上げているからと考えられる。

数の計算問題(numeracy)については、問題文が英語文で、問いの意味の理解に誤解があったにもかかわらず、G5では、受験者の平均がBand5を超えている。

③過去数年の平均値の変化について

過去数年の平均値の変化については、児童、生徒の入れ替わりが激しい本校の特色柄データ分析が

1 7 1 1 6

④教師は、子どもとよく話をし、よく理解している。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

1 6 9 8 1

⑤教師は、教育活動の内容等を懇談や通信等でよく伝えている。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

1 1 1 6 5 2

⑥学校に行ってみると雰囲気がよく、子どもたちも生き生きしている。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

2 0 1 1 3

⑦学校全体が、親の意見にもよく耳を傾け、相談しやすい雰囲気である。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

1 6 1 0 8

(児童・生徒回答)

⑧授業がわかりやすい。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

1 9 1 1 4

⑨学級が楽しく、友だちとも仲良くやれている。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

2 4 5 5

⑩学校へ行くのが楽しい。

5 -- 4 -- 3 -- 2 -- 1

2 3 4 5 2

それぞれの項目の評価平均は、下記の通りである。

(1) 児童生徒の学校に対する満足度 (3項目) (5点満点中 4. 2点)

(2) 保護者の学校に対する満足度 (7項目) (5点満点中 4. 5点)

(3) 教職員の満足度 (5点満点中 4. 0点)

XI. 会計報告

1, 別紙様式にて、報告。